

サンプルプログラム2

トレーニング用プロジェクト「4-5 ウィンドウの変更」「4-6 ライブラリの利用」「4-7 アイテムのグループ化 (リスト)」「4-8 フィルタの作成」「4-9 空間フィルタの作成」「4-10 フィルタ検索とルート検索」「4-11 属性値をまとめて取得 (カーソル)」の各項目の内容にしたがってサンプルプログラム2を作成します。

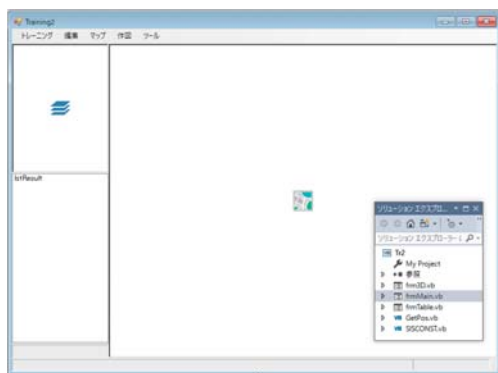
使用データ

- プログラミングコース用のデータ (C:ドライブの「プログラミングコース」フォルダ)

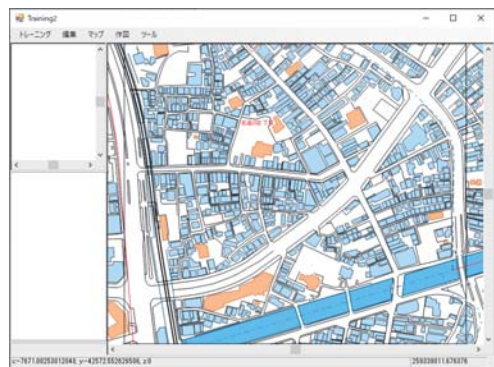
以下のサンプルプログラムを開き、内容を確認します。

- サンプルプログラム2のソリューションファイルを開きます。
「ファイル/プロジェクトを開く」コマンドを実行し、以下のファイルを指定します。

C:\プログラミングコース\%ActiveX%\Tr2\Tr2.sln



- 既存のプログラムを確認します。トレーニング用のメニューのほかに、SIS ActiveX のイベント処理や「編集」、「マップ」、「作図」、「ツール」などのメニューに SIS のコマンドの処理があらかじめ記述されています。
- Visual Studio の「デバッグ/デバッグの開始 (F5)」コマンドでプログラムを実行します。メインフォームの Form_Load イベントプロシージャの処理で、マップドキュメントやデータセットを読み込みます。

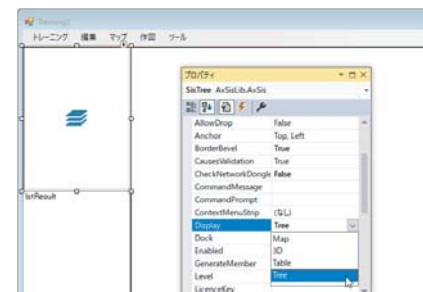


- 「トレーニング/終了」コマンドでプログラムを終了します。

4-5 ウィンドウの変更

ツリーウィンドウ

ここでは SIS ActiveX のツリーウィンドウの表示処理を実装します。SIS ActiveX コントロールの「Swd」プロパティを使用して、メインフォームの2つの SIS ActiveX コントロールが同じマップドキュメントを参照するように設定します。



- メインフォーム (frmMain) 左上の SIS ActiveX コントロールの Display プロパティを「Tree」に設定します。コントロールのアイコンが Tree アイコンに変化します。
- frmMain の Form_Load イベントプロシージャに次のように記述します。

```
Private Sub frmMain_Load(sender As Object, e As EventArgs) Handles MyBase.Load
    Dim Swd, Dataset As String
    . . .
    With sisMain
        . . .
    End With
    sisTree.Swd = sisMain.Swd           ※1
    sisTree.Activate()                 ※2
End Sub
```

- ※1 Tree 用の SIS ActiveX コントロールが参照するマップドキュメントのシリアルナンバー (Swd プロパティ) に、メインの SIS ActiveX コントロールが参照しているマップドキュメントのシリアルナンバーを設定します。
- ※2 Tree 用の SIS ActiveX コントロールをアクティブにします。

- Visual Studio の「デバッグ/デバッグの開始 (F5)」コマンドでプログラムを実行します。左上の SIS ActiveX コントロールがマップコントロールの表示になることを確認します。



- メインフォームの「トレーニング/終了」コマンドでプログラムを終了します。